

4. 学校生活

(1) 部（クラブ）活動

学校での部（クラブ）活動に入っているかどうかは、図 4-1-1 のとおりである。小5全体では6割、中2全体では9割が入部している。男女別では、女子の方に文化部に入っている割合が高かった。自由記述では、「部活動の種類を増やしてほしい」という声が数件あった。必ずしも入りたい部活動に入れるとは限らない状況もある。

1週間に何日部活動をしているかは、図 4-1-2 のとおりである。小5全体では、3日以内が7割ほどであるが、中2全体では、土日も行っていることが多く、6日以上が全体で7割あった。

「部活動の日数」と「毎日の生活の忙しさ」の関連をみると、部活動が「週7日」ある子どもでは、「とても忙しい」と「わりと忙しい」を合わせると4割あり、部活動の日数が多いほど、忙しいと感じている子どもの割合が高くなっている（図 4-1-3）。

部活動が楽しいかどうかでは、「わりと楽しい」「とても楽しい」を合わせると、小5全体で8割、中2全体で7割あった（図 4-1-4）。中2では、忙しさを感じつつも、部活動を楽しんでいる子どもが多いと思われる。

図 4-1-1 部活動に入っているか

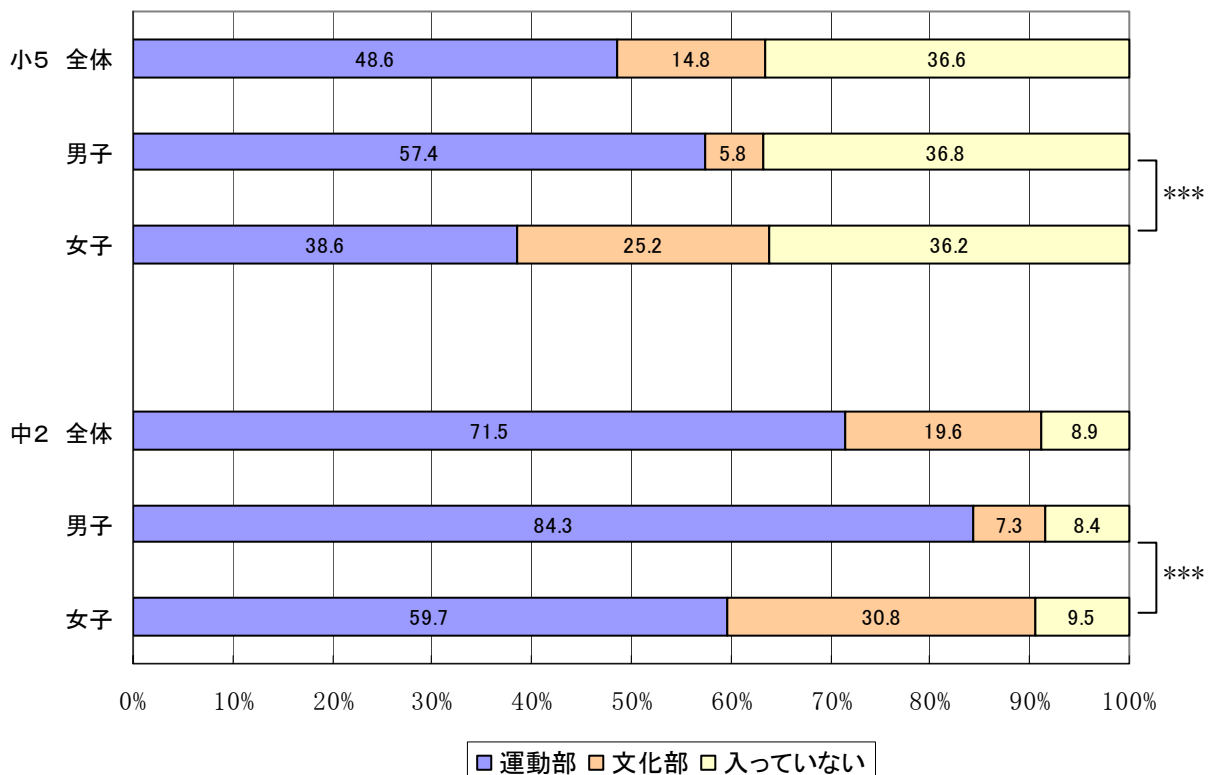


図 4-1-2 部活動の日数

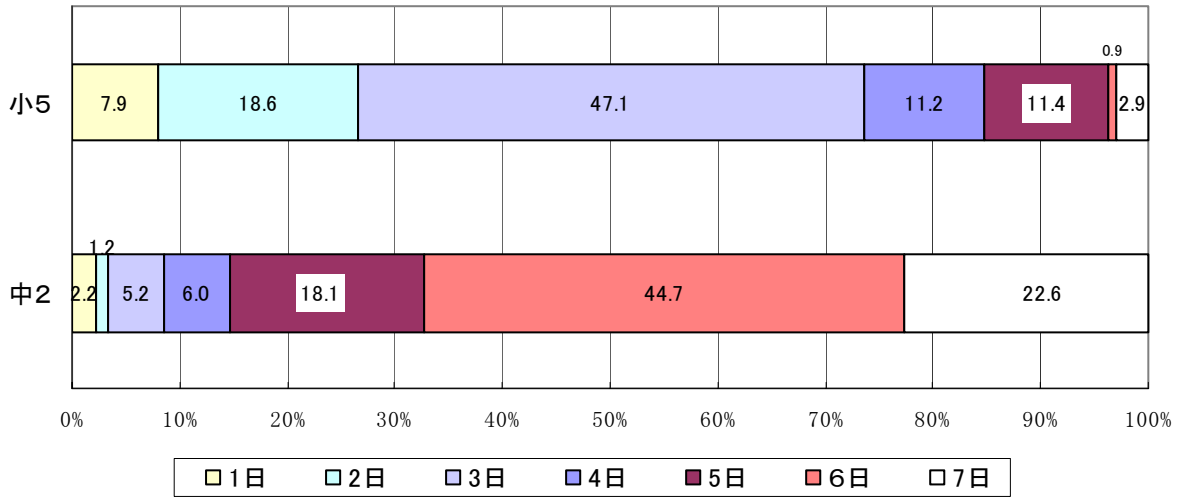


図 4-1-3 「部活動の日数」と「毎日の生活の忙しさ」の関連（中2）

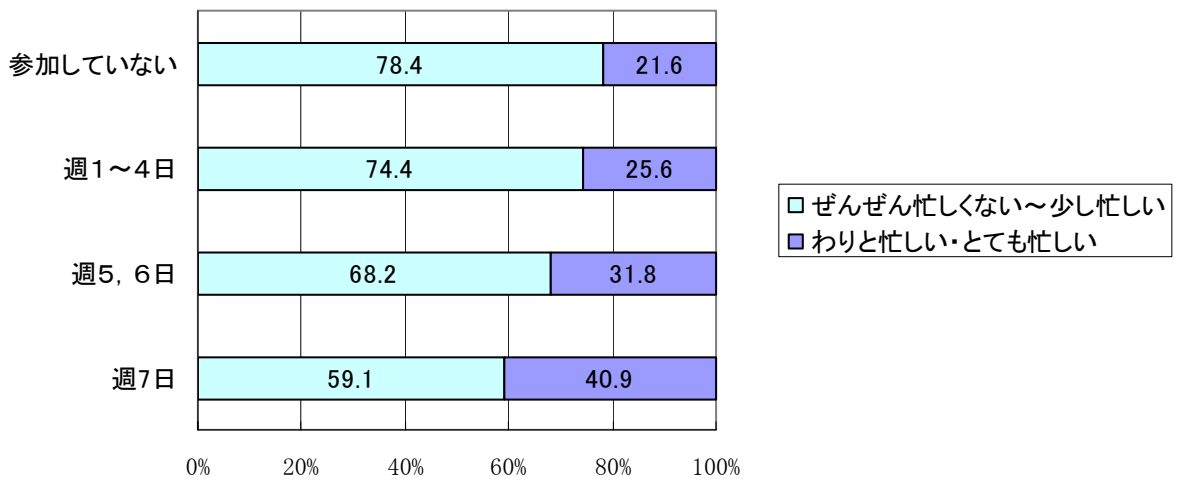
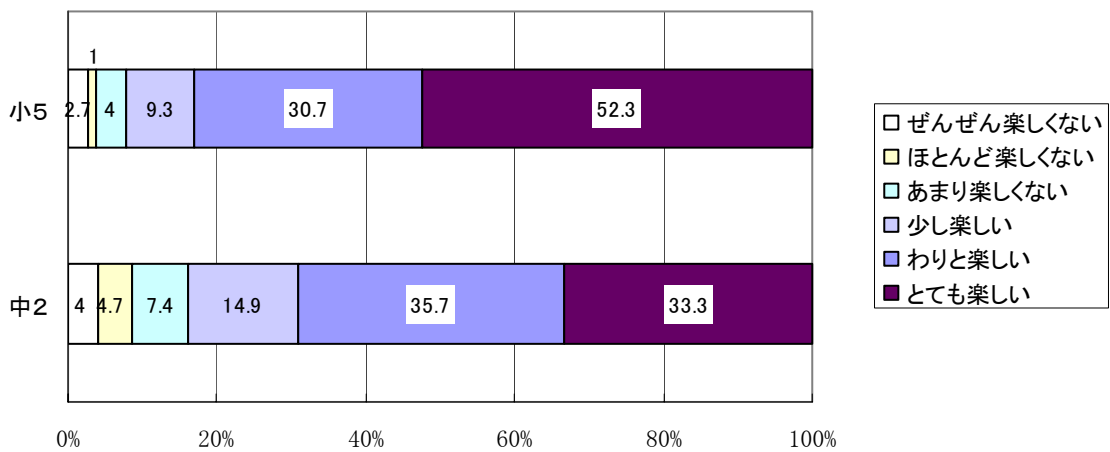


図 4-1-4 部活動が楽しいか



(2) 学校に行きたくないと思ったこと

学校に行きたくないと思ったことがあるかどうかを、今年度と前年度までに分けて質問し、それぞれ6段階評価で回答してもらった。図 4-2-1 のように、今の学年で学校へ行きたくないと思ったことがある子どもは、「いつもある」と「ときどきある」を合わせると、小5で 14% ほど、中2で 19%いた。前年度までについても、今年度についてと、ほぼ同じ傾向であった(図 4-2-2)。男子と女子では、差がなかった。

今年度学校に行きたくないと思ったことが「いつもある」、「ときどきある」と回答した群を、「不登校意識群」(それ以外を「一般群」)、前年度まで「いつもある」、「ときどきある」と回答した群を「前年度まで不登校意識群」(それ以外を「一般群」とし、両者の関係をみたのが、図 4-2-3 である。「不登校意識群」のうち6割は、前年度までにも学校へ行きたくないと思うことが「いつも」、ないしは「ときどき」あったということである。

図 4-2-1 今の学年で学校に行きたくないと思ったこと

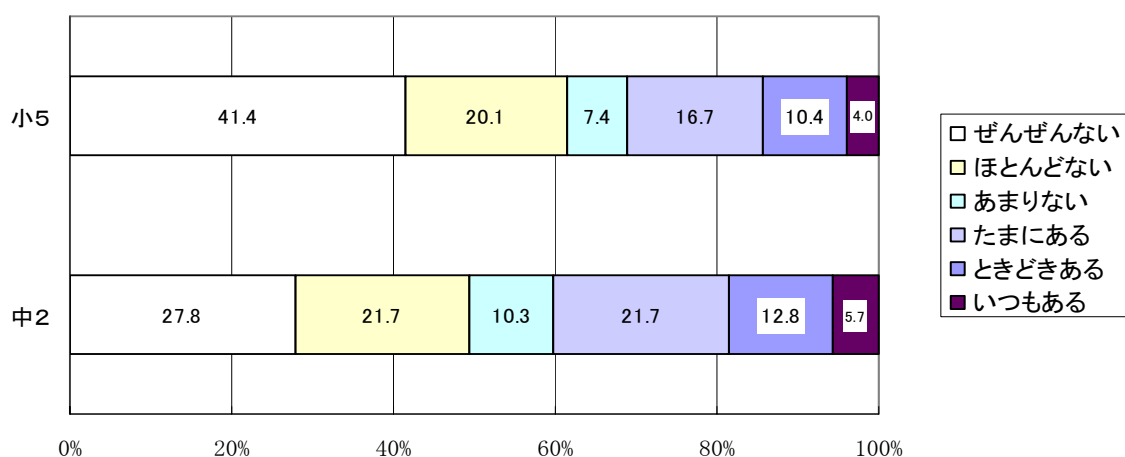


図 4-2-2 前の学年までで学校に行きたくないと思ったこと

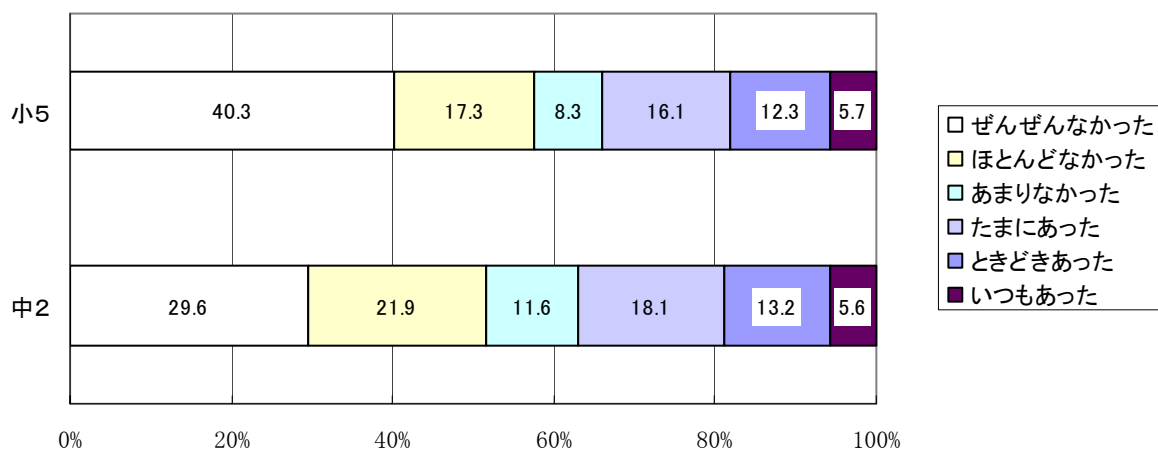
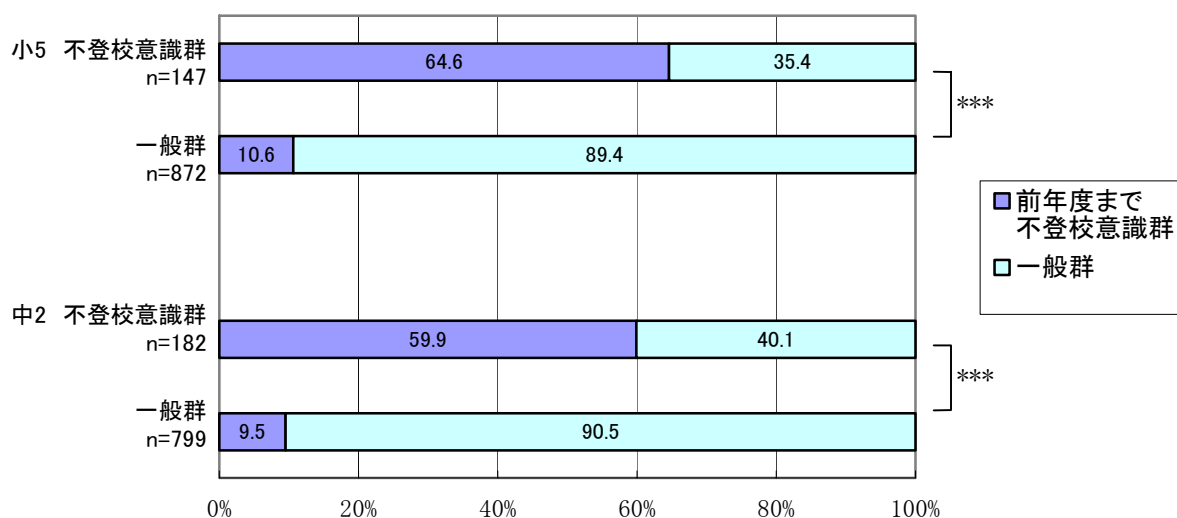


図 4-2-3 「不登校意識群」と「前年度まで不登校意識群」



今までに一度でも「学校に行きたくない」と思ったことのある人に、学校へ行きたくない理由を尋ねたところ、小5で771人(72%)、中2で767人(76%)から回答があった。図4-2-4のように、「体の疲れや睡眠不足」が最も多く、小5で4割、中2で5割あった。次いで、「なんとなく」、「友達のこと」が2割ほどと多い。小5に比べて中2は、「部活動のこと」が多くに多くなっている。中2のこの上位4項目については、男女差もみられた(図4-2-6)。小5でも、中2でも、「友達のこと」は女子に多く、「なんとなく」は男子に多かった(図4-2-5)。その他の理由としては、「学校の授業が難しいから」、「体がだるい」などがあった。また、小5では、「塾の宿題が大変だったから」、「塾が大変で疲れていたから」というものもあった。

図 4-2-4 学校に行きたくない理由

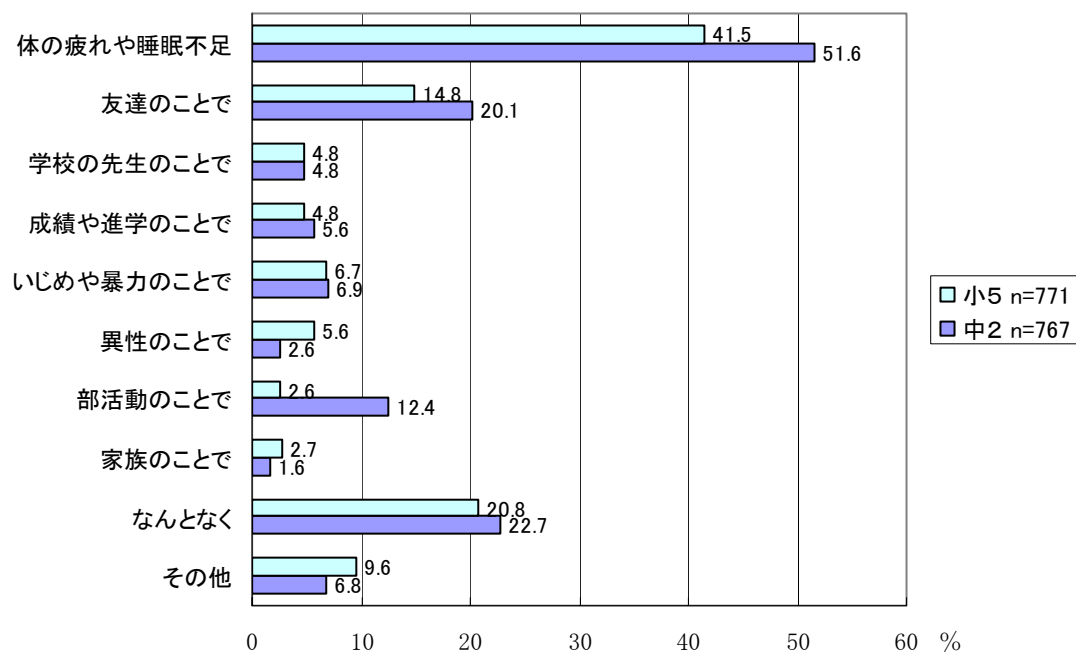


図 4-2-5 学校に行きたくない理由（小5・男女別）

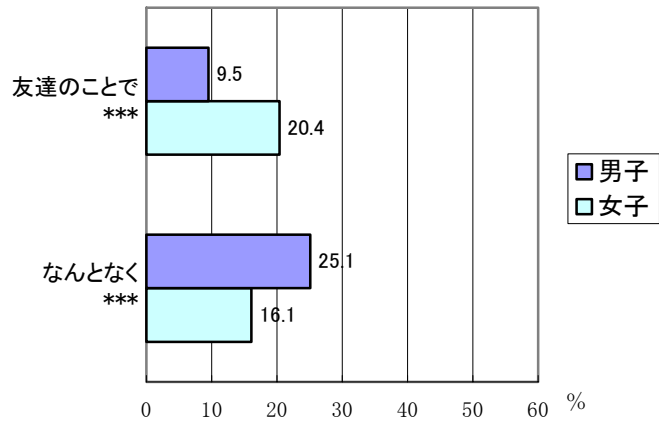
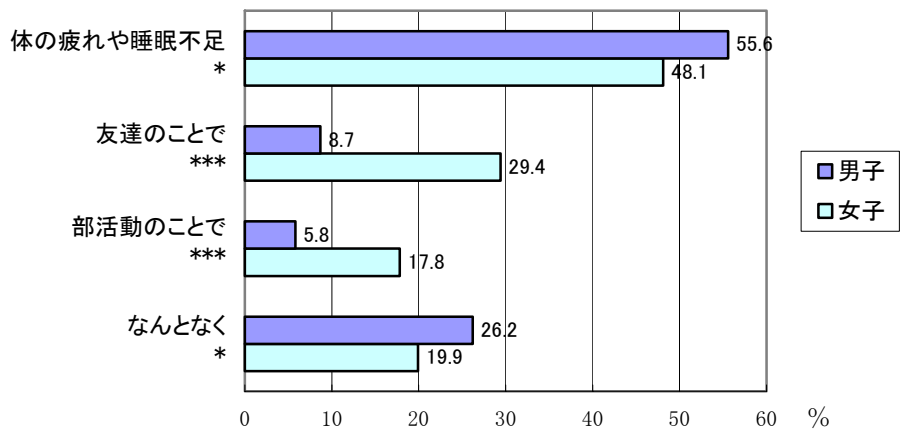


図 4-2-6 学校に行きたくない理由（中2・男女別）



(3) 学校に行けた理由

「学校に行きたくないと思っても登校できた人は、どうして学校に行けたのだと思いますか」との質問への回答（複数選択）は、図 4-3-1 のとおりである。小5では、「学校は休んではいけないものだったから」が8割弱ある。中2では、それは4割に落ち、「なんとなく」「勉強がわからなくなると困ると思ったから」が3割となる。

男女別に差がみられた項目は図 4-3-2、図 4-3-3 のとおりである。小5、中2とも、「心配してくれる友達がいたから」、「勉強がわからなくなると困ると思ったから」は女子の方が多く、「なんとなく」は男子の方に多かった。また、中2で「学校は休んではいけないものだったから」は男子より女子の方に多かった。女子の方が友達とのつながりや規範意識が強く影響していると考えられる。

その他の理由として主なものは、「友達に会いたかったから」、「親に心配をかけたくなかったから」、中2では「部活動をしたかったから」もあった。

図 4-3-1 学校に行けた理由

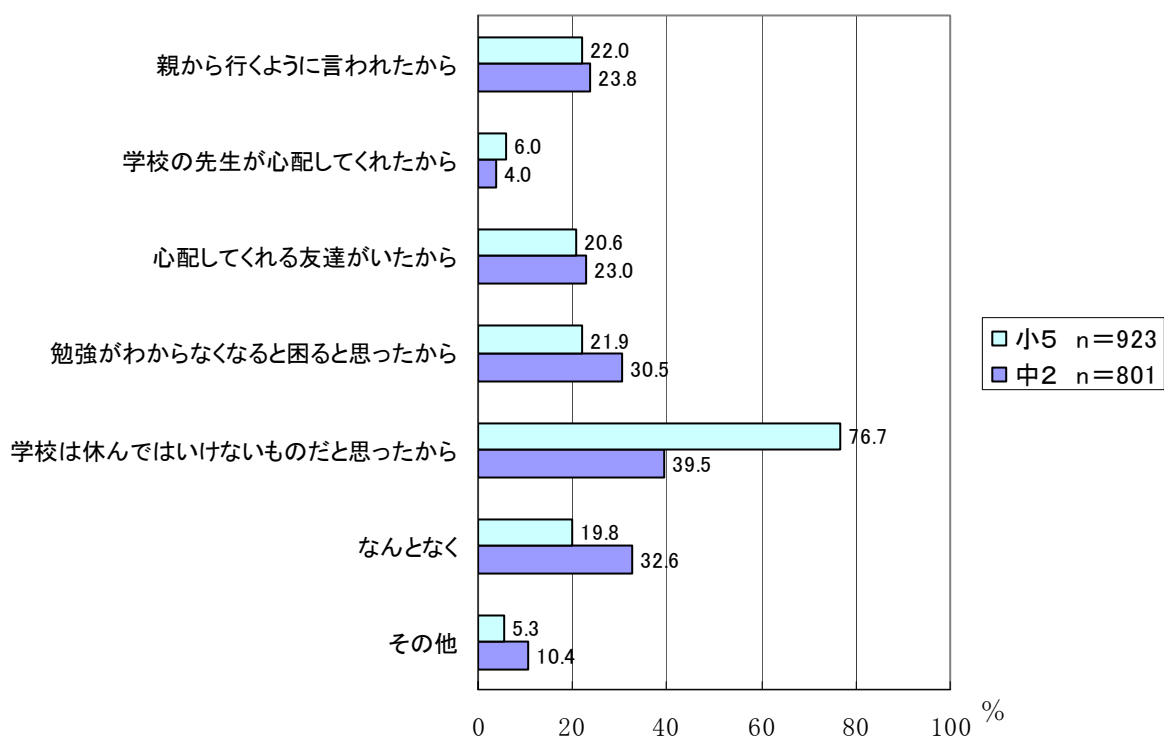


図 4-3-2 学校に行けた理由（小5・男女別）

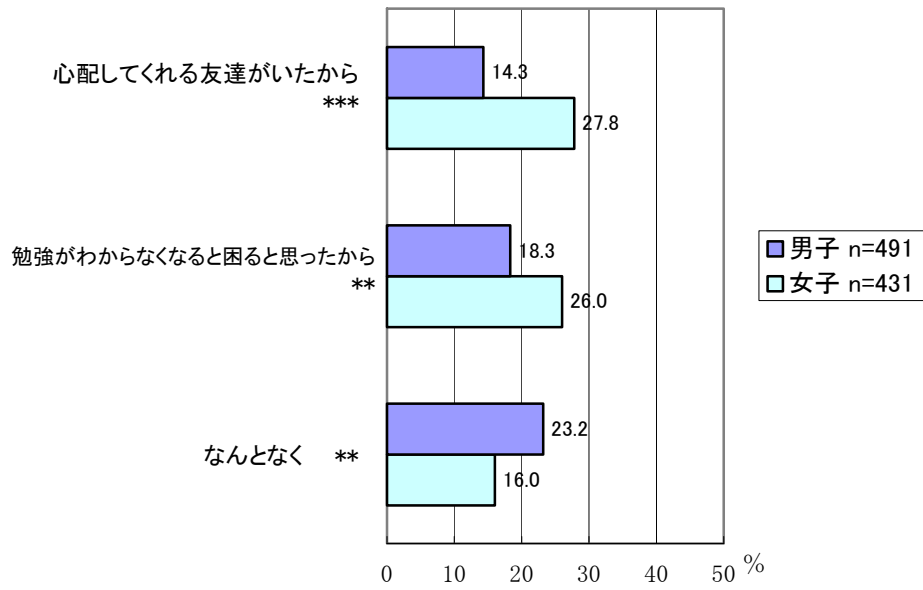
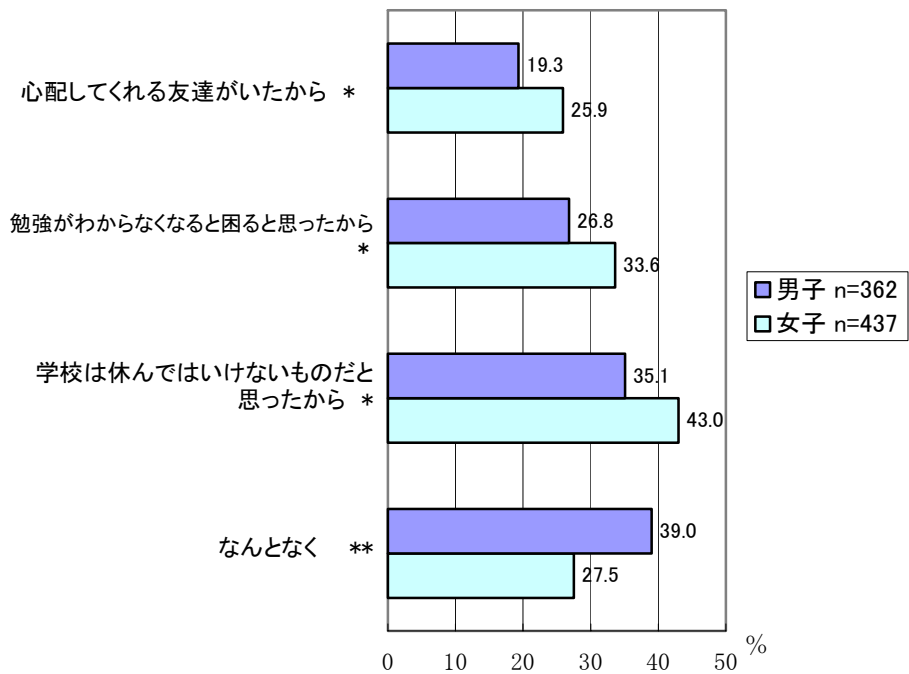


図 4-3-3 学校に行けた理由（中2・男女別）



5. 悩み

(1) 悩み事や心配事

悩み事や心配事があるかどうかは、図 5-1-1 のように、小5全体では45%、中2全体では66%が「ある」と答えている。男女別では、中2では男子より女子に「ある」が多く、74%となっている。小5では、男子と女子で差は認められなかった。

悩み事や心配事の内容は、図 5-1-2 のとおりである（複数選択）。小5、中2とも、「勉強や進学のこと」が最も多いが、中2では小5の倍の5割となっている。また、中2では、「部（クラブ）活動のこと」や「将来の職業のこと」も、「友達のこと」と並んで2割となっている。

図 5-1-1 悩み事や心配事の有無

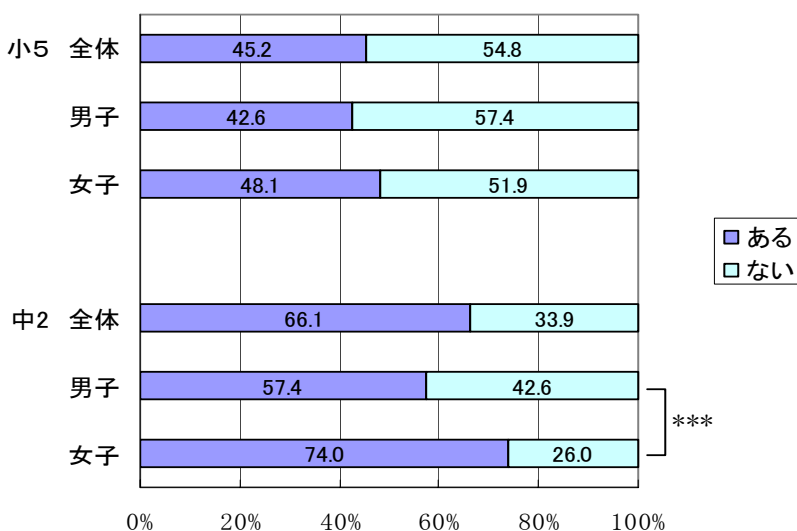
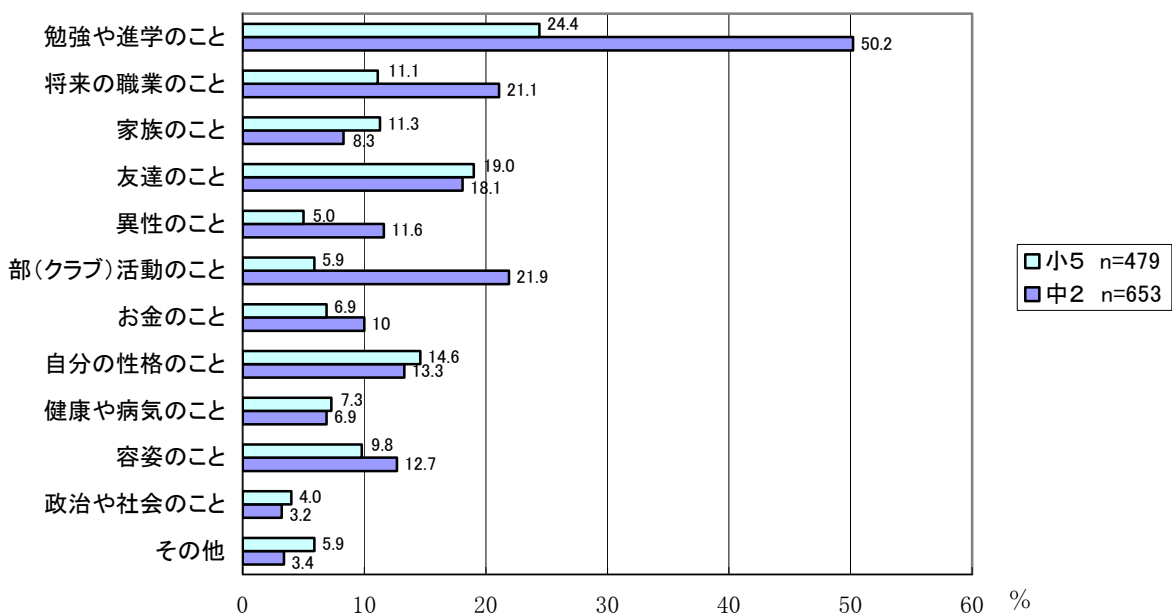


図 5-1-2 悩み事や心配事の内容



(2) 相談相手

「困ったことや悩み事をだれに相談するか」を、全員に聞いたところ、図 5-2-1 のようであった（複数選択）。小5では、「お母さん」が最も多いが、中2では「学校の友達」が最も多くなっており、「学校の先輩」も1割ほどいる。「お父さん」は中2では小5の半分ほどに少なくなっている。中2は、おとなより友達・年齢の近い層に相談する傾向がみられるが、「学校の先生」も、小5、中2とも1割あり、内容によっては重要な相談相手となっていると思われる。「学校での相談会などを作ってほしい」（小5）という自由記述もあった。

男女別では、小5、中2とも、「お父さん」は女子より男子に多く、「学校の友達」は男子より女子に多くなっている。また、中2では「お母さん」、「きょうだい」、「ネット上の友達や知人」、「学校の先輩」も男子より女子に多くなっている（図 5-2-2、図 5-2-3）。

図 5-2-1 相談相手

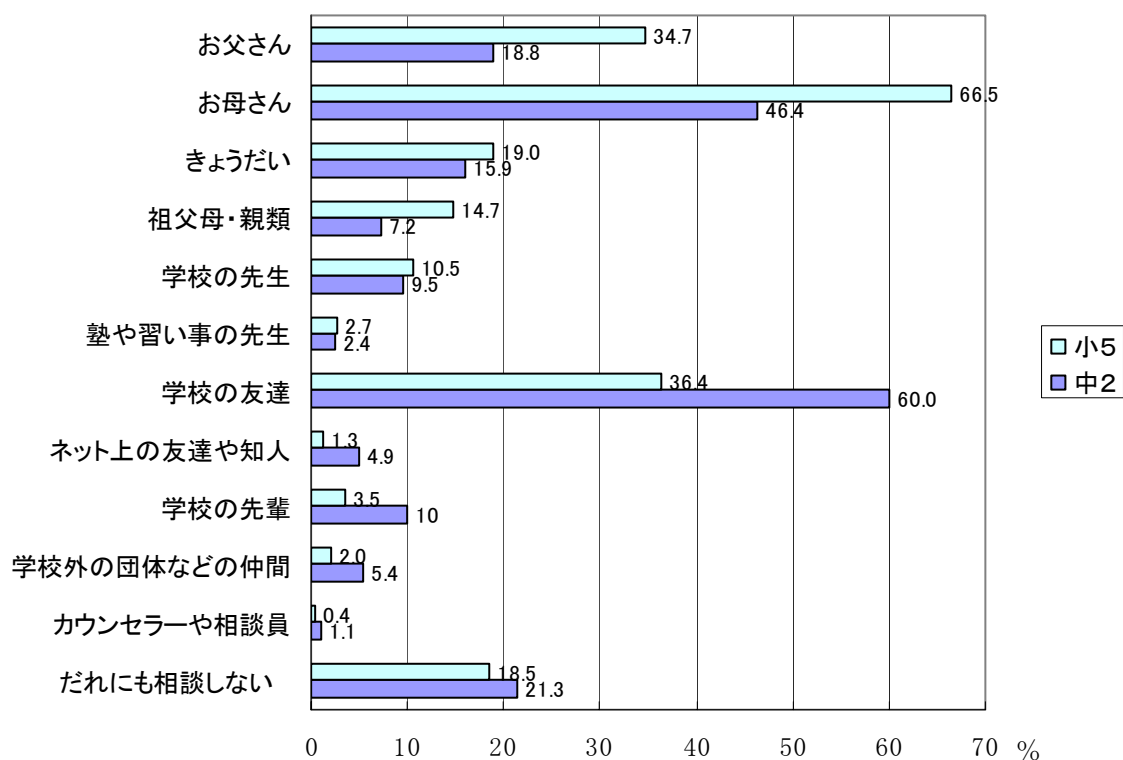


図 5-2-2 相談相手（小5・男女別）

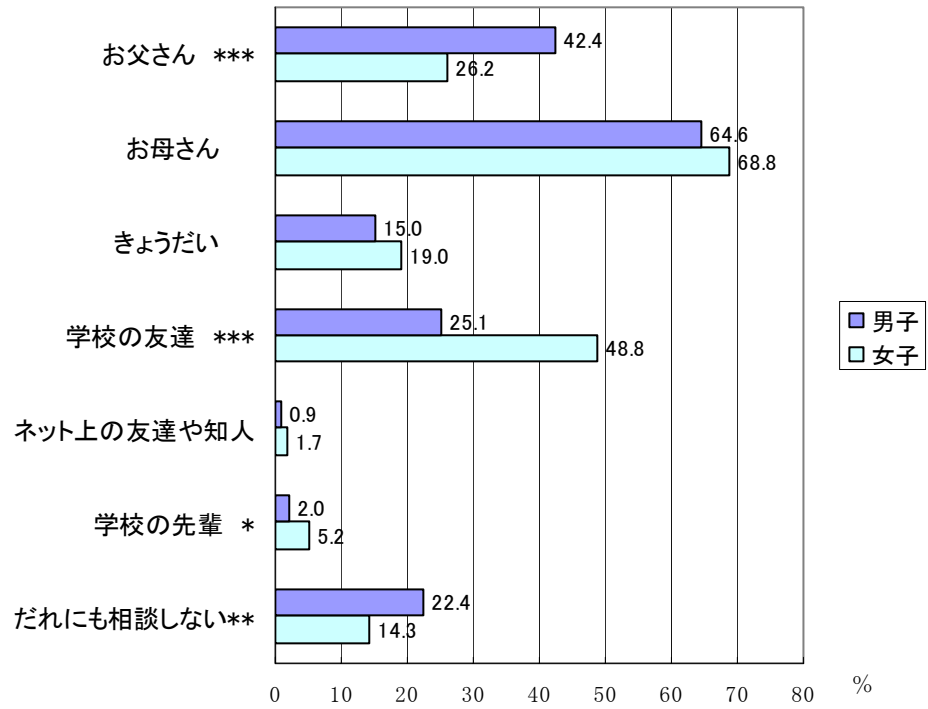
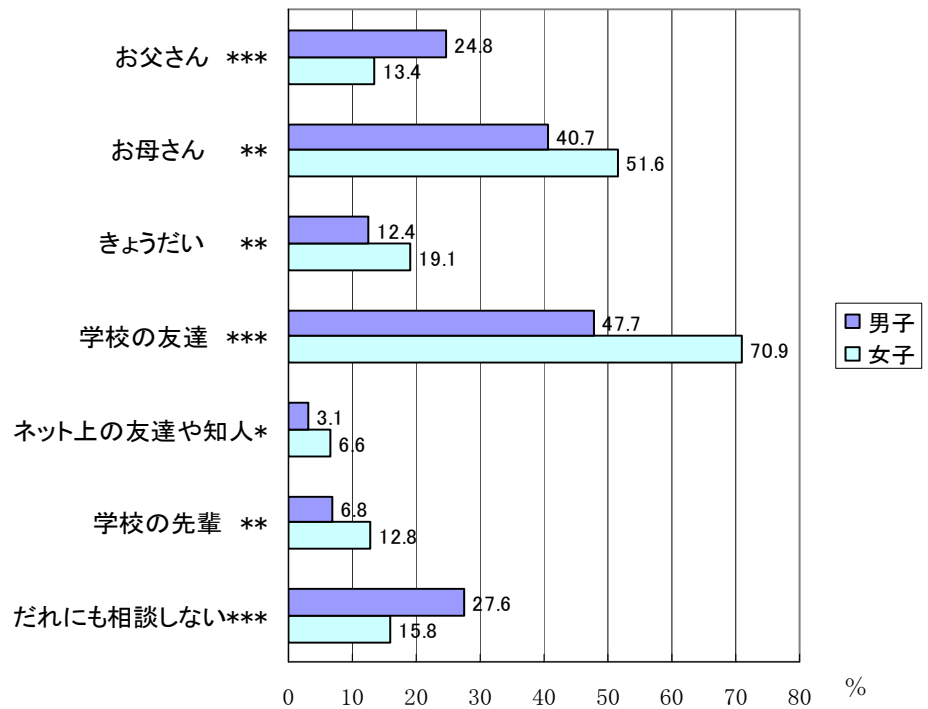


図 5-2-3 相談相手（中2・男女別）



「だれにも相談しない」は、小5、中2とも、2割あり、女子より男子に多くなっている。相談しない理由を聞いたところ、図 5-2-4 のようであった。小5では、「心配をかけたくないから」「どう話したらよいかわからないから」が多く、中2では、「自分で解決しようと思うから」「話しても解決しそうにないから」が多かった。その他の理由としては、「面倒くさい」、「困ったことがないから」、「話したくないから」などがあつた。

また、「父母が自分の話を聞いてくれるかどうか」（図 3-2-1 参照）と、「だれにも相談しない」との関連をみてみた。「ぜんぜん聞いてくれない」、「ほとんど聞いてくれない」、「あまり聞いてくれない」、「少し聞いてくれる」を「聞いてもらえない群」、「わりと聞いてくれる」、「とてもよく聞いてくれる」を「聞いてもらえる群」とすると、図 5-2-5 のように、「聞いてもらえない群」に「相談しない」の比率が高かった。話を聞いてもらえない体験が、相談しないことにつながると思われる。

図 5-2-4 だれにも相談しない理由

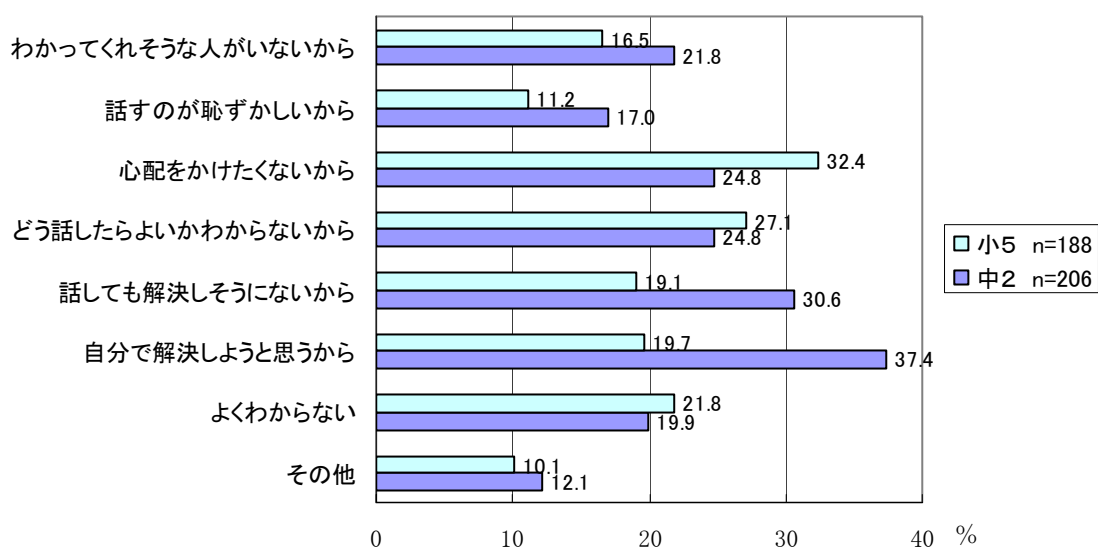


図 5-2-5 「だれにも相談しない」と「話を聞いてもらえない」群の関連

